

カニマンボ Cani Mambo

モザンビークからの便り



Boa tarde！（こんにちは！）新しい年のスタートですね。今年も良い一年にしましょう。

一人一人の顔に向き合うこと

2015年の1年間の活動を終わりました。この1年、私にとって一番やりがいがあったのは担任としての活動です。担任をしていても、69人の生徒の顔と名前を一致させるのは簡単ではありません。自分なりにできることは何だろうか？と考えて、やり切った取り組みが**家庭訪問**でした。



家族を早くに亡くして、親戚の家に養子に出ていたり、親の代わりに兄妹の家事を毎日こなしていたり、また、子供のいる生徒もいたり、学校の様子だけでは分からないことも知ることができました。

「迷惑かもしれないな…」そんな不安もあったのですが、実際に家を訪れると家族も生徒も喜んで迎えてくれました。「家の子のことも見捨てずに、関わってくれてありがとう」家族の言葉に、この国の学校が抱える課題の1つを見た気もしました。一人ひとりの生徒を見捨てないで、向き合おうとすること。担任としての原点に返ることが出来ました。

「今、どこまで出来るか」ということだけでなく、「過程」を大切にしたい！

1年間の最後に待ち受けているのは卒業試験です。10年生、12年生は国の作った卒業試験を受け、合格すれば卒業、不合格なら留年になります。国の決めたレベルに到達できたかどうか？生徒はそこで評価されます。これは私にとっては憂鬱なものでした。残念ながら最終的に、国の試験をクリアするほどの状態にはたどり着けなかった生徒も多いです。それでもこの1年を過ごす中で、彼らの成長はたくさん見てきたし、評価したい…試験結果だけが、重くのしかかります。

試験で見とれない頑張りもあります。

「80点が取れる」ことにも意味はありますが、「30点が50点になったこと」や、「点数を上げるために家でも勉強をしたこと」「遅れずに学校に来ることが出来るようになったこと」「仲間が困っていたときに教えることができたこと」「分からないときに、仲間に助けを求められたこと」など、生徒が成長したことや努力したことを評価することのほうが大切なのではないかと…頭の中はモヤモヤします。



「結果として留年にはなってしまったけど、この1年の頑張りや成長には意味があるよ。」

そんな言葉を投げかけながら、悔しさも拭えません。少なくとも、**生徒の成長過程には寄り添える教師になりたい**…そう決意しつつ、このモヤモヤとは日本に帰ってから向き合うことになりそうです。

一人でやるのではなく、一緒にやる

たくさんの人とチームでつくり上げる活動もありますが、個人で、一人で出来る活動もあります。例えば、授業をするとき、授業を一人で準備するのと、誰かと準備するのと、どちらが楽でしょうか？

一人であれば、自分がやりたいようにできます。自分のこだわりをそのまま取り入れて活動することができます。それが、誰かと一緒にやるとなると、まずは相手の時間に合わせないといけない、相手と意見が違ったときは話し合わないといけない、そして何かを我慢しないといけない…だから、「**一人でもできることを、あえて誰かと一緒にやる**」というのは、大変なことかもしれません。

現在、青年海外協力隊は世界のさまざまな国に派遣されています。中には全ての活動を、現地の人と一緒にやるという派遣形態の人もいますし、一人の職員として仕事を任されるという派遣形態の人もいます。私は後者のパターンになります。現地の先生と同じように、一人の先生としてバリバリ活動することを望まれています。「**自分の姿を見て、相手が何か感じてくれれば…**」そんな思いで活動をしてきましたが、**自分は日本に帰ってしまうことを考えると、「現地の人と一緒に」**やることの必要性も感じます。

しかし、そうすると待たされたり、約束に来てもらえなかったり、また意見を理解してもらえなかったり、悩みが増えることにもなります。

最初に紹介した担任としての活動も、始めは同僚と一緒にやろうと話をしてきましたが、相手に合わせていると、何も進まないまま時間が過ぎていきました…だから、結局は自分のクラスだけで活動をしてしまいました。そこが去年を振り返っての反省です。

私がこの国で活動をする事ができるのは、残り3ヶ月となりました。残りの日々は、「**同僚と一緒にやる**」をテーマに活動に励みたいと思います。いよいよラストスパート。自分自身も、この国での出会いから、まだまだたくさんを学んで帰りたいと思います。

「先生の日」の1コマ
同僚とパレードに参加しました！

